

広報きりしま8月号で、隼人は朝廷の支配下に置かれる過程で、政治的に設定された民族であると紹介しました。

隼人は自分たちの生活を守るため、朝廷に一方では従い、一方ではあらがいました。その抵抗は時に武力を伴うものでした。特に大きかったのが養老4(720)年に起こった戦いです。

### 養老4年の戦い

朝廷の支配に抵抗し続けていた隼人の人々は養老4年2月、大隅国守である陽侯史麻呂やうこうしまろを殺害します。大隅国守は現代に置き換えると、政府から派遣されていた県知事のようなもの。隼人は朝廷からすると従わない野蛮な民族と認識されていたので、都である平城京に大事件として伝えられました。

すぐに朝廷は、中心的な人物であ

## 郷土の扉

The gateway to local history

る大伴旅人おほとものたびとを征隼人持節大將軍として、総勢1万人以上の軍隊を編成。

当時の日本全体の人口は500万人程度と考えられていますので、1万人の軍隊はとても大きな編制です。

朝廷軍は長い旅路を経て南九州にたどり着き、隼人と戦います。この戦いは1年余り続き、養老5(721)年7月に朝廷軍が平城京に戻ったことで終わりを迎えます。朝廷軍は勝利を収め、隼人は死者・捕虜合わせて約1400人の被害が出ました。隼人の人々の必死の抵抗は、朝廷の圧倒的な武力によって抑え込ま

# 隼人の抵抗1300年

れたのです。この戦いを最後に隼人の抵抗はなくなりました。

日本の歴史上において、隼人を取り込み、朝廷の支配が南九州に及んでいくことを決定付けた重要な戦いだったのです。

### 隼人が戦った場所

隼人は南九州全体の住人を指すので、戦いがどの範囲で行われたのかは分かっていません。宇佐神宮(大



国分重久にある隼人塚伝説の碑

分県宇佐市)に伝わる史料によると、隼人は7カ所の城にこもって戦い、曾於乃石城そ(お)のいわきと比売之城ひめのみきで最後まで粘って戦ったとあります。

曾於乃石城は現在の国分城山、比売之城は国分姫城地区と隼人姫城地区の間にある山と考えられているので、隼人が最後まで戦い続けた場所は国分平野であったと推測されます。そのため、国分重久には隼人の首塚があった伝説(隼人塚伝説)をはじめ、

市内には隼人(熊襲)の伝承が多く伝わっています。

隼人の抵抗が終結して、今年で1300年。朝廷の支配という圧倒的な力の前でも、自分たちの生活を守ろうと果敢に抵抗した隼人の人々の精神を、今こそ見直してみたいかがでしょうか。

(文責 小水流)

※熊襲の頭領が隼人である説など、隼人と熊襲は結び付けられることが多かった。近年の研究で隼人と熊襲は別物であると判明している。

## 隼人の抵抗 1300年 記念 シンポジウム・講演会



↑申し込みはこちらから

隼人の抵抗1300年を記念したシンポジウム・講演会で「隼人」とは何かを探ります。Zoomでの参加もできます。

申し込み方法など詳細は市ホームページをご覧ください。

問=社会教育課 ☎(64)0708